

キャプナ★ニュースレター

市民講座から まっすぐな情熱に感動

2月24日のCAPNA市民講座は、矢満田篤二理事が講師でした。

矢満田理事を一言で表すならば「粘る人」。その粘りはさまざまな試練に耐え抜いたことに裏打ちされています。穏やかな語り口に誠実な人柄がうかがえますが、誠実さに粘りが加わるので説得力があります。

講座ではいかにも元児童福祉司らしい、綿密な調査が感じられる事例を挙げて詳しい解説をしてくださいました(複数事例の再構成)。その時々の子どもや母親の心情を事細かに観察することで一見不可解な事件も点と点が結ばれ、背景が備わるとより立体的に私たちの前に現れます。そこには間違いない弱者の叫びがありました。なぜ私たちが立ち上がらなければ、という想いを抱くのか、改めて思い起こす晩となりました。この日の講座では「もっと話が聞きたい」という声が多数寄せられました。

聴くものの魂を揺さぶった証ですね。

ジャスコの黄色いレシートでCAPNAを応援してください。

CAPNAは、イオン(株)の行う社会貢献活動の一つ「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加しています。毎月11日の「イオンデー」に発行されるジャスコの黄色いレシートを、各店に設置された専用ボックスに投函していただくと、皆様のご好意がそのレシート合計額の1%分の商品となってCAPNAに寄付されます。現在(H17年4月)、CAPNAのボックスは『名西店』『守山店』『南陽店』『扶桑店』『瀬戸みずの店』『ワンダーシティ店』『イオン熱田店』『マックスバリュート弥富店』『木曾川店』『高橋店』の10店舗に設置されています。お見かけの際は、どうぞご協力ください。

また、レジ袋を断る際にもらえる『買い物袋スタンプカード』(20個押印されたもの)を、サービスカウンターで『イオン黄色いレシートキャンペーン投函カード』と引き換える事も出来ます。

<黄色いレシート、助成金のご報告とお礼>

3月に入り、各店舗より続々と助成金の報告が事務局に届きました。皆さんが入れてくださったレシート一枚一枚が、こうして大きな力となってCAPNAを支えて下さることに感謝して、活動上必要な物品を購入させていただきました。また、その詳細につきましては、次号にて改めてご報告させていただきます。

ありがとうございました。

みなさまからの投稿、お待ちしております。

CAPNAへのご意見、ご希望などをどしどしお送り下さい。励ましのお手紙、また、厳しいご意見などどんな事でも結構です。事務局宛にファックス、封書、E-mailをお願いします。

尚、ニュースレター内の投稿コーナー『はあとすていしょん』にて掲載させていただくこともございます。その旨、ご承知お下さい。

E-mail アドレス: capna@cronos.ocn.ne.jp

ご寄付 次の皆様からご寄付をいただきました。お礼申し上げます。

(2-3月分、順不同、敬称略)

- 【団体】名古屋市熱田青年の家ヤングフェスティバル実行委員会、国際ソロプチミスト名古屋 子ども家庭リソースセンター、名古屋名城ロータクトクラブ
- 【個人】小倉了順、中島久子、爾見かね子、矢満田篤二、白石淑江、鷹見直子

他匿名で3名

CAPNAニュースレター40号 (隔月刊24号)

2005年4月8日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA事務局広報チーム

事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882

遅めの桜も、このニュースレターが届く頃にはきっと満開かと思えます。

10年目を迎えたCAPNAも今、エンジン全開で「愛・地球博」の出展準備に励んでいます。

子どもの虐待の問題を、より多くの方々に考えていただくために、5月の一か月間、長久手会場の地球市民村に「子どもと話そう館」を出展するほか、ワークショップ、野外人形劇(こどもの日イベント)などを開催します。

万博のにぎわいぶりはますますのようですが、地球市民村への入手はまだまだ少ないようです。皆様、5月はぜひCAPNAのパビリオンへ遊びに来てください。お待ちしております。

Vol. 40



「子どもと話そう館」で会いましょう!

愛・地球博の地球市民村で、CAPNAとチルドレン・ファースト（スコットランド）が共同開催する「子どもと話そう館」が5月1日オープンします。期間は1ヵ月間です。

紙芝居、ペープサート（絵人形を棒で動かすもの）、DVDの映像によるメッセージ、野外ステージでの人形劇など趣向を凝らした展示で、虐待とは何か、望ましい親子関係とは何かを考えていただきます。万博にお越しの際は、ぜひ地球市民村に足をお運びください。

「子どもと話そう」というテーマは、一見、虐待の問題と結びつきにくいかもしれませんが、私たちはこのテーマに真摯な思いを込めました。

「本来の自分」を取り戻すために

大人は人間関係のストレスをかかえることが多くなりがちです。それはしばしば、自分の思い通りに他の人をコントロールしようとする願望から始まるものです。自分の言うことを聞かない子どもに腹を立て、「しつげだから」と暴力をふるってしまうのも、ストレスに起因する虐待です。

でも、私たちは他人を振り回そうとしたり、他人の行動にイライラするような感情を、生まれながらに持っていたわけではありません。もっと、好奇心にあふれ、自由を愛し、やりたいことをたくさん持っている「本来の自分」を取り戻す必要があります。

そのために子どもと話し、子どもから多くのことを学ぶことが大切です。私たちの心の中に住む「内なる子ども」の声を耳をすませる必要があります。

ストレスにうまく対処できる「本来の自分」であるために、子どもたちから学ぼう。謙虚に耳を傾けよう。それが虐待防止だけでなく、自分や家族の幸せにもつながるのだと私たちは考えています。

共催団体のチルドレン・ファーストからは計4人の主要メンバーにお越しいただき、パビリオン内での展示や解説にも協力していただきます。

また、14日（土）には全国の虐待防止の市民団体の交流会を会場内の交流ホールで開催します。万博を舞台に、虐待防止のネットワークを広げていきます。

紙芝居

親子のコミュニケーションについて、一緒に考えてもらう内容です。

開催時間は次の通りです。（変更になる場合があります）

- 10:00 紙芝居 1
- 11:00 紙芝居 2（水・土・日祝日はペープサート）
- 13:00 紙芝居 3
- 14:00 紙芝居 4（水・土・日祝日はペープサート）
- 16:00 紙芝居 5
- 17:00 紙芝居 6
- 18:00 紙芝居 7
- 19:00 紙芝居 8

地球市民村とは

NPO・NGOのユニットを公募により選出し、毎月5ユニットずつ計30ユニットが出展。環境、国際協力、福祉など地球規模の課題に取り組む市民の活動をアピールする場です。

天空スクリーンのある「出会いのゾーン」と、市民団体が体験型の展示、ワークショップを行う「体験と交流のゾーン」があります。

4月の参加ユニットは、北海道ウタリ協会釧路支部、ECOPLUS、国境なき医師団日本、おかざき匠の会。5月がCAPNAと、どんぐりの会、世界宗教者平和会議日本委員会、自然エネルギー推進市民フォーラム、ジョイセフ（家族計画国際協力財団）です。

館外の催事

- 5月2日（月）13:00-15:00 ワークショップ「子育てのストレスについて」（ワークショップホール、チルドレン・ファーストと共催）
- 3日（火）13:00-15:00 人形劇「同じじゃなくてもいいじゃない」ほか（ワークショップホール、協力：劇団やっとかめ）
- 4日（水）13:00-15:00 人形劇「同じじゃなくてもいいじゃない」ほか（ワークショップホール、協力：劇団やっとかめ）
- 5日（木）13:00-15:00 人形劇「同じじゃなくてもいいじゃない」
人形劇「しつげと虐待～ちよっと待ちやあせ～」
（大地の広場、協力：劇団やっとかめ、アトリエあ・うん）
- 11日（水）10:00-13:00 ワークショップ「子どもに聞いてごらん、見てごらん」（ワークショップホール、協力：せとっ子未来会議）
- 14日（土）12:00-18:00 日本子どもの虐待防止民間ネットワーク交流会（交流ホール）
- 21日（土）11:00-13:00 人形劇「同じじゃなくてもいいじゃない」ほか（ワークショップホール、協力：劇団やっとかめ）
- 29日（土）13:00-15:00 ワークショップ「子育てのストレス（仮）」（ワークショップホール、チルドレンファーストと共催）